

加味帰脾湯は認知症患者の BPSD を改善し、望ましい感情表現を回復させる

Traditional Chinese Medicine Jia Wei Gui Pi Tang Improves Behavioural and Psychological Symptoms of Dementia and Favourable Positive Emotions in Patients

岩崎鋼

あゆみ野クリニック

Koh Iwasaki MD, PhD

Ayumino Clinic Ishinomaki, Miyagi Japan

【 緒言 】

Behavioral and psychological symptoms of dementia (BPSD) は認知症患者の介護負担を増し、施設介護の原因となる。 BPSD において出現するネガティブな感情を、挨拶する、介護者に親しみを込めた応答をするなどの望ましい感情表現に変えることは重要な臨床課題である。しかし、これまで望ましい感情表現を回復させたという報告はない。

【 方法 】

観察者を盲検化した多施設ランダム化比較試験で加味帰脾湯の BPSD に対する効果及び望ましい感情表現を回復させる効果を観察した。また、有害事象をモニターした。

対象は、アルツハイマー病ないしアルツハイマー病と脳血管性認知症が混合している症例である。BPSD は Neuropsychiatric Inventory Nursing Home Version (NPI-NH) で、望ましい感情表現は Delightful Emotional Index (DEI) で評価した。本研究は仙台富沢病院、桜十字福岡病院、藍野花園病院の倫理委員会の承認を受けた。本研究について演者に COI は存在しない。

【 結果 】

63 名（男性 18 名、女性 45 名、平均年齢 83.3 ± 6.0 歳）をランダムに加味帰脾湯投与群 33 名と従来治療群（対照群）30 名の二群に分け、NPI-NH と DEI を 28 日間の観察期間前後で測定してその変化を one-way analysis of variance ANOVA で統計解析した。加味帰脾湯投与群では NPI-NH は 29.8 ± 17.3 から 13.2 ± 9.4 へと有意に改善し（paired t-test, $P < 0.001$ ）、対照群では有意な変化はなかった。加味帰脾湯投与群では DEI は 24.3 ± 23.0 から 32.5 ± 21.2 へと有意に改善（paired t-test, $P = 0.001$ ）したが、対照群では有意な変化はなかった。どちらの指標も one-way ANOVA で群間に有意差を認めた。観察期間中に重大な有害事象は認められなかったが、その後加味帰脾湯を臨床応用する中で一名、加味帰脾湯投与との関係を否定出来ない悪性症候群を認めた。

【 考察 】

加味帰脾湯は BPSD を有意に改善させると共に望ましい感情表現を回復させた。『内科摘要』の表現を要約すると、帰脾湯は思慮のあまり脾虚となり、健忘、不安、動悸などを生じる場合に用いるとあり、加味帰脾湯はそれに柔肝の柴胡と山梔子を加えたもので、中医学的効能と「BPSD の本質が本人の不安と周囲との軋轢である」という現代医学的認識が合致する。なお、柴胡、山梔子を加えた意味について浅田宗伯は「虚熱を挟み、肝火を帯びている場合に対応したものだ」と解説している。また、加味帰脾湯については極めて少数例の研究ではあるが MCI 患者に用いて DB-RCT で認知機能を改善させたという報告 (Shin H et. al. BMC Complement Med Ther. 2021) も存在する。従って我々の報告はこうした伝統医学的知見及び先行研究に則り、加味帰脾湯が BPSD を改善させるだけでなく本人の望ましい感情表現を改善させることを強く示唆する。ただし、加味帰脾湯投与に当たっては悪性症候群に留意する必要がある。

キーワード : behavioural and psychological symptoms of dementia (BPSD), favourable positive emotions, Jia Wei Gui Pi Tang (加味帰脾湯), Traditional Chinese Medicine